

止まることのない職員不祥事、市長の「責任」が問われます

幸山市長のもと、増え続け、悪質化する不祥事

右の表は、幸山市長が就任して以降の「懲戒処分」の年次推移です。

1期目に比べると、2期目・3期目は、明らかに懲戒処分の事案が増えています。また、重い処分である「免職」や「停職」が増えています。

特に、今年2013年度は、たった2ヵ月で、3人もの懲戒免職処分が出ています。異常な事態です。

内容も、一番免職が多かった昨年は、酒気帯びで免許取り消しの上の無免許運転、酒気帯び運転、保護世帯の戻入金の着服、公金窃盗。

今年度は、女性のスカート内盗撮による逮捕、公金横領、死亡者の遺留品からの現金窃盗など、悪質な事案が続いています。

市長は、昨年10月に給料を1ヵ月返上しましたが、その程度のことでは全く効果はありませんでした。

【懲戒処分の年次推移】

年度	免職	停職	減給	戒告
2002		1	1	
2003		1	5	5
2004		4	2	2
2005	2		2	1
2006		4		
2007	2	23		2
2008	2	4	2	1
2009	2	4	2	2
2010	2	4		
2011	2	7	2	
2012	6	2	1	2
2013	3			

*2002年度は、9月からの7ヵ月

*2013年度は、4・5の2ヵ月

- ・処分は、①戒告・②減給・③停職・④免職の順に重くなります。
- ・「戒告」は、厳罰による注意です。

職員の士気低下の原因は何か、市長の改革の中身が問われます

行政改革によって、職員数が減られ、一方で嘱託などの非正規職員が増えてきました。正規職員の責任は重くなる一方で、公務員給与の削減は続けられています。

議会などからの批判もある中、課長級ならびに係長試験が続けられています。受験資格がありながら受験しない職員もいて、管理職にふさわしい人材がすべて管理職になれる状況ではありません。

政令市移行によって必要となる職員数は増えながら、実際の職員数が不足し、ひとりひとりの業務量が増えています。政令市になって残業が増えました。過度のストレスは、メンタルに陥る職員の増加にもつながります。

職員が生き生きと働ける職場環境こそ必要です。

(控室から)
人間としての「約束」 益田牧子
仲代達矢さん主演の映画「約束」を観、真実を追及する生き方に衝撃を受けました。映画は、獄中から無実を訴え続けている仲代さん紛する死刑囚『名張毒心どろ酒事件』の記録と証言を再検証し、ドキュメンタリーで描いています。戦後唯一の、1審無罪判決から、2審で死刑判決、「自白」を重視し、最高裁で死刑が確定した事件です。何回も繰り返される再審請求と棄却。再審が決定し、面会室で、特別面会人とガラス越しに手を合わせ、「今度は晴れて、塀の外で握手しましょう。お互いしくとく生きましょう。約束ですよ」という場面には、泣かれました。半年後、心筋梗塞で、支援者は、約束を果たせず亡くなります。客観的な新証拠があったにも関わらず、再審は、却下。映像は、再審を取り消した門野裁判長を画面いっぱい、映し出します。この裁判長は、翌年、東京高裁に栄転。2012年の再審も、下山裁判長が却下。若い弁護士と共に、渾身を込めて奮闘する鈴木弁護士。権力の醜さとそれに加担する裁判官個々の責任が問いかねられます。人間としての約束を果たすために、私たちも傍観者ではられません。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまどか

熊本市手取本町1-1 議会棟3階

No. 853

2013年6月16日号

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

ホーム：http://www.jcp-kumamoto.com/



公共施設の耐震改修第一人者・青木茂首都東京大学特任教授 「産業文化会館は立派な建物・構造体は問題なし」と太鼓判

リファイニング・復活の青木ワールドに感動

6月5日に、青木茂首都東京大学教授を迎えて、「産業文化会館の再活用を考える講演会」が開催され、100名近い参加者が集まりました。「どんなに老朽化した建物でも、耐久性を強化し、用途変更で美しく変身できる」青木教授の数々の実践例は、正に「目から鱗」でした。講演に先立ち、閉館中の産業文化会館の視察に参加していただきました。先生からは、「亀裂もなく、良好な建物であり、耐震補強をすれば十分使うことができる」と太鼓判を押してもらいました。参加者の声を紹介します。

※リファイニングとは・・・築年数が経過した建物を、耐震強化等で再生し、利用すること

「解体されるかもしれない建物を、その地域の歴史、文化等のデザインを生かし、誰も挑戦しなかった復活の青木ワールドに感動しました。（男性、建築士）」

産文会館が建造物として、非常にしっかりしているという話に感動しました。（男性）

壊すのは「もったいない！」青木先生のお話は、詳しくわかりやすかった。多くの利用したい市民が勇気をもらった。（男性）

使い方の意見を幅広く拾うべきです。解体する理由が貧弱な気がする。（男性）

「劇的ビフォー・アフター」を見ている感じがしました。熊本市長をはじめ、議員さん、執行部の方々に聞かせたかった。（男性）

保存と再生の大切さが良くわかりました。（女性）

公共施設の今後に関しては、一人でも多くの市民の方々の声を吸い上げ反映していくことが大切だと思います。（男性・研究者）

産業文化会館の再開を求める会が「抗議」声明

池田義一代表は、6月11日の特別委員会を傍聴。産業文化会館の解体を容認した特別委員会の決定に抗議する声明を発表しました。会は、「産業文化会館のフレッシュなリニューアルが街の賑わいと文化土壌の育成に大きく貢献することを確認し、心ある市民の皆さんと、その再開を求め続けることを表明する」と意気軒昂です。

産文解体・MICE 予算の凍結解除を多数決で容認

6月11日の特別委員会では、これまでの議論を無視し、産業文化会館の解体予算を容認。300億円もの大型会議場建設についても、市議会も参加して進めるとしています。日本共産党の「市民アンケート」では、「改修して使うべき」が78%、MICE 施設建設では、「既存施設を利用すべき」が78%です。市政のムダ使いを糾す議会のチェック機能が問われています。

幸山市長「広場の熟度不足」を表明

益田牧子議員は、「予算の撤回」を要求

6月7日の特別委員会には、幸山市長が出席し、総括質疑が行われました。市長は、広場計画では、熟度不足を認める一方、「予算の凍結解除」を要望。益田牧子議員は、「熟度が低いというなら、予算を撤回すべきだ」と厳しく批判しました。

産業文化会館は、耐震改修の専門家からも、「良質な建物であり、十分使える」と言われており、耐震改修や空調などの工事費は、10億円位でできると指摘。幸山市長がこれまで、間違った情報で、産文会館の閉館を誘導してきた不誠実な対応を批判しました。

※MICE とは・・・企業等が行う会議（Meeting）、報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会等のイベント（Exhibition/Event）の頭文字のこと。